

# たいよう新聞

480号

2026年1月10日発行



代表取締役社長 かとう ゆきまさ 加藤 行正

株主の皆様、社員の皆様、あけましておめでとうございます。旧年中は多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

2024年の試練を経て、2025年はお客様や関係者の皆様からの信頼を取り戻し、確かな絆を築くことができた一年でした。2026年は、これまでの準備と経験を糧に、新体制のもとさらなる「飛躍」を遂げる一年となるよう、全社一丸となって邁進いたします。

## ■ 事前の策が生んだ信頼

2025年は、「施工体制の構築」と「信頼回復」を最優先課題として取り組んでまいりました。特に力を入れたのが、リスクを未然に防ぐための「施工会議」の活発化です。

着工前の段階で、技術に精通した人材をオン

ライン会議で招集し、あらゆるリスクを予測・共有する体制を徹底しました。この「先回り」の対策が功を奏し、昨年は大きなトラブルなく現場を進行することができました。また、困難な時期にあっても、職人の皆様が当社を信じてついてきてくれたこと、そして有資格者の採用が進んだことも大きな支えとなりました。

約束通りに工事をやり遂げるという当たり前の積み重ねが、お客様からの再評価に繋がり、継続的な受注という形で再び信頼を寄せていただけたことは、経営者として何よりの安堵と喜びであります。

## ■ 逆風の中で輝く新たな希望の光

建設業界全体を見渡せば、建築コストの高騰により、予定されていた大型プロジェクトが延

期や計画変更を余儀なくされるケースが散見されました。当社においても、当初見込んでいた売上が思うように伸びないという厳しい現実がありました。

しかし、そのような向かい風の中で希望の光となったのが、昨年から本格始動した不動産事業です。これは土地を取得し、自社でマンションを建築・売却するという当社にとって新たなビジネスモデルです。以前から定款変更を行うなど、将来を見据えて着々と準備を進めてきた種が、まさに必要なタイミングで芽吹きました。今後も変化に動じない多角的な収益構造を構築いたします。

### ■ ■ ■ 教えることで共に学び、成長する

組織の内部においても、将来の成長を見据えた種まきが進んだ一年でした。中でも特に手応えを感じているのが、人材育成の進化です。新入社員研修やレベルアップ研修での発表の内容を見ると、そのクオリティは年々確実に向上しています。これは、指導にあたる先輩社員たちが、後輩に教える過程で自らも学び、成長している証に他なりません。「共育」の文化が社内に根付き始めていることを頼もしく感じています。

### ■ ■ ■ 新体制で挑む、次なるステージ

さて、昨年12月に適時開示させていただきました通り、本年2月より社長交代を行います。

就任より約9年間、山あり谷ありでしたが、何とか業績を向上させることができたのは、ひとえに株主様、お客様、社員および協力業者の皆様、取引先の皆様からの多大なるご支援のおかげと、厚く御礼申し上げます。

今年の干支は「丙午（ひのえうま）」です。火と馬の組み合わせを象徴し、行動力、社交性、エネルギーに満ちた年とされています。特に新しい挑戦や冒険に適しており、会社トップの交代にふさわしい年であると考えております。

60期からは、私は代表取締役会長として、六鹿新社長と共に、経営理念に沿った社業発展に専心努力いたす所存です。私の信条である「人を大切にすること」「心で接すること」「謙虚であること」「誠実であること」「感謝の気持ちを持つこと」を行動指針とし、会長職として「第二ロケットスタート」の勢いで、これまで手が届かなかった領域へ行動力をより一層高めて活動してまいります。

### ■ ■ ■ 社員の幸せと企業価値の向上へ

体制は変わりますが、目指すべき場所は変わりません。改めて経営理念である「働いて良かったといえる職場づくり」と「社会に存在価値のある職場づくり」に立ち返ります。

社員一人ひとりの成長こそが会社の成長であり、ひいては業績の向上やPBR（株価純資産倍率）の改善といった株主様への還元につながるかと確信しています。現在、PBRは0.5倍以下という水準にありますが、中期経営計画に基づき、企業価値の向上に全力を注ぐ所存です。

六鹿新社長のもと、社員の幸福と会社の発展、そして株主様への貢献を高い次元で実現できるよう邁進いたします。新体制となる当社を、どうぞご支援くださいますよう、宜しく願い申し上げます。





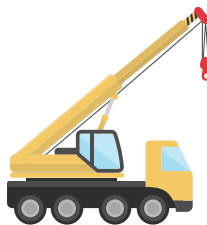
# 最前線レポート

## ポートアイランド処理場改築更新等事業

今回紹介する現場は、神戸市のポートアイランド処理場改築更新等事業です。古い護岸の中を推進工法で突き進むという難易度の高い工事において、いかにして安全と品質を確保しているのでしょうか。約1年にわたる綿密な事前調査と計画、そして日々の安全管理について、現場を指揮するOさんに語っていただきました。

### 現場概要

現場名	ポートアイランド処理場改築更新等事業
施工期間	2023年3月1日～2028年6月30日
場所	兵庫県神戸市中央区ポートアイランド地内
発注者	神戸市様
一次請	太洋基礎工業株式会社
現場体制	太洋基礎工業株式会社 1名 他協力会社 8名
施工目的	ポートアイランド処理場改築に伴う環境施設工事

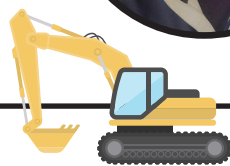


大阪支店 工事部 係長

Oさん



### 現場の特徴



#### 旧護岸突破へ、盤石の布石を打つ

最大の特徴は、旧護岸の中を推進工法で掘り進める点です。地中にある旧護岸には空洞などが確認されており、そのまま掘り進めることは困難な状況でした。そのため、石や地盤が動かないようにダブルパッカー工法などを用いて薬液注入を行い、地盤を強固に固める工程が必要となります。まずは足元の地盤を安定させ、そのうえで推進を行うという、非常に高度な技術と慎重な手順が求められる現場です。

### 苦 労した点と乗り越え方

#### 計画段階での綿密な調査

施工自体は本格化して間もないのですが、着工に至るまでの調査と計画には約1年という長期間が費やされました。旧護岸内の石の状況や硬さを詳細に調査し、それに対応できる推進機械を選定する必要があったからです。

また、地盤を固めるための工法や材料についても、社内で検討を重ねました。過去に類似した工法の実績があったため、その際の経験やデータを参考にしながら、最適な施工計画を練り上げました。この入念な準備期間こそが、本工事の肝と言えます。

#### 潮流を考慮した薬液注入

現場は海に近い埋立地であるため、潮の干満による地下水の流れます。通常の薬液では水流に流されてしまい、効果が薄れてしまうリスクがありました。そこで、地下水の流れる環境でも確実に薬液の効果を発揮させるため、流速などの調査を行い、最適な薬液と注入方法を選定。環境への配慮と施工品質の両立を目指し、計画段階で工夫を凝らしたポイントです。



▲ダブルパッカー作業風景

### 施工完了に向けて

#### 声かけで築く盤石の安全体制

2028年の完工に向けて、何よりも優先すべきは「無災害・無事故」です。労災や事故を絶対に起こさないよう、常に細心の注意を払っています。また、薬液を使用する工事であるため、周辺環境への影響がないよう品質管理も徹底しています。安全管理において大切にしているのが、現場での「声かけ」です。ベテラン、若手を問わず、危険な行動があれば互いに注意し合える環境づくりに注力。知識が必要な若手社員には丁寧に指導し、全員が高い安全意識を持って作業に取り組めるよう努めています。今後も関係者と協議を重ねながら、円滑かつ安全に工事を完遂させます。

## できない理由を見つけるより、できる方法を考えよう

私が社会人になったばかりの18歳の頃、当時の上司から言われ、今でも心に刻まれている言葉です。経験の浅い若手の頃は、困難な仕事を前にすると、つい「できない理由」や「言い訳」を先に考えてしまいがちです。しかしその上司は、「どうすれば実現できるか」と思考を切り替えることの大切さを教えてくれました。

30年以上経った現在も、この言葉は私の仕事における基本姿勢となっており、壁にぶつかったときこそ、解決策を見出すことに全力を注いでいます。

## 伝え方を磨き、円滑なコミュニケーションを

最近、動画サイトで経営者などの「講話」を視聴しています。若い頃から、「どうすれば相手に自分の意図が正しく伝わるか」「円滑なコミュニケーションが図れるか」ということに関心があり、講演会などによく足を運んでいました。

現在は動画を通じて、話の内容だけでなく、話し手の「伝え方」そのものを学んでいます。聞き手を引きつける強弱の付け方や、間の取り方など、上手な話し方を分析し、実務に取り入れるよう意識。相手の立場に立ち、伝わりやすい言葉を選ぶことで、社内外の信頼関係を深め、スムーズに業務が進むよう努めています。

# 声援



大阪支店 環境開発部 部長

Mさん

## Taiyo Report

# たいようレポート

## 絆栄会との合同安全衛生協議会・忘年会を開催

2025年11月28日(金)メルパルク名古屋にて、当社と絆栄会との合同安全衛生協議会・忘年会を開催しました。第1回の開催にもかかわらず、社員・絆栄会会員合わせて、86名もの方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



### プログラム

#### 1.開会の辞

当社執行役員建築本部 部長 吉安 鎮生

#### 2.絆栄会 会長あいさつ

絆栄会 会長 上原 一郎様

#### 3.本部長あいさつ

当社取締役建築本部長 豊住 清

#### 4.乾杯

絆栄会 副会長 永田 雄二様

#### 5.歓談

◆マグロの解体ショー

#### 6.閉会の辞

当社安全衛生担当 Y

